

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol13, No2 をお届けいたします。

本号では、4本の原著論文、5本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「多様な Web 情報を活用した地域観光情報基盤の高度化の検討」は、地域の観光に関する web から収集したコンテンツ、SNS に投稿された情報といった多様な情報の解析において、情報量が少なくスパース性を持つ SNS データに対して、AI 理論を活用して定式化するというユニークな論文です。

原著論文「映像制作の経験前と経験後の認知構造の変化～自由記述の内容分析を通して」は、映像制作の前後で、自由記述形式の質問紙に回答を求めることで、認知構造が劇的に変換することを、テキストマイニングの方法で、明確に示した画期的な論文です。

原著論文「日本型的経営におけるイノベーションのジレンマ」は、従業員の行動とマネジメントシステム間の関係を統計的に探索し、結果として、安定的な雇用契約と分権的な成果主義的評価システム、労働生産性重視のシグナルとなるようなリストラクチャリングが、組織横断的な従業員の自発的行動を促しうることを検証した点に学問的価値がある論文です。

原著論文「持続可能な成長に向けた社会課題解決のためのイノベーション創出アプローチに関する考察」は、社会課題を解決するための新規ビジネスの創造を、エフェクチュエーションに結び付け、現実の実例で実証した点はユニークな着眼点を持つ論文です。

研究ノート「映像制作による教育的効果の定量的研究～大学における PBL 型講義を事例として～」は、4因子の抽出、および、回想法の有利性を導き出した点は、大いに評価でき、探索的で独自性のある論文です。今後の本調査で、より明確な結果が出ることに期待します。

研究ノート「日本企業における業務 IT システム活用の問題研究—部門間の軋轢が業務遂行、および業務 IT システムの活用に与える影響について—」は、業務 IT システムで解決できない問題につき、複数企業データより推定原因を分析し、その主原因は企業内部門間の軋轢に起因するという BPR の限界への指摘には学問的意義のある論文です。今後の研究に期待をします。

研究ノート「異なるコミュニティを橋渡しするブリッジング・リーダーシップの研究—寺院とカレールによるコミュニティ形成の事例をもとに—」は、リーダーとメンバーの間の相互作用の結果として引き起こされる社会的現象としてのリーダーシップを、階層のないコミュニティ間の橋渡しをする SNS を利用した事例をもとにコミュニティの活性化について新しい視点から研究した論文です。

研究ノート「基礎自治体における社会コミュニケーションに関する予備的研究」は、ビジネス・コミュニケーションの視点から、行政の広報と広聴を組織としての基礎自治体と、総体としての住民との間の行政というビジネス（業務）に関するコミュニケーションと捉え、その関連性を分析したユニークな着眼点を持つ論文です。今後の研究に期待をします。

研究ノート「サプライチェーンマネジメントにおけるブロックチェーンの応用システムモデルの考

察」は、サプライチェーンとブロックチェーンを概観した上で、ブロックチェーンの応用システムモデルを戦略基盤、サプライチェーン戦略の主要素、サプライチェーン戦略のテストにおける各項目に、どのシステム特性が解決策となり得るかを分析しています。今後のさらなる研究に期待をします。

多くの研究が投稿され、多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に、情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2019年3月31日

情報社会学会
会長・編集委員長
大橋 正和